

★ザンゼル・インゼル 大谷翔平選手の『非認知能力』★

2023年3月に行われたWBCで、『侍ジャパン』は3度目の優勝を成し遂げた。特に、**大谷翔平選手**の活躍は、みなさんの記憶にも残っているはず。自らの投打でチームを牽引し、チームを鼓舞し、世界一を達成したあの衝撃は忘れることはないだろう。決勝で日本に敗れた米国のデローサ監督は『野球界が勝利を収めた』と会見で語り、それはおそらく、『野球というスポーツそのものも持っている魅力を世界中に見せることができた』という意味であり、それほど『魅力が集約された、マンガのようなストーリーの奇跡の場面』であったということだろう。そして、その熱狂の渦のまんなかいたのが大谷翔平選手だったということになる。MVPを獲ったということもそれを証明しているが、それは世界中の誰の目にも明らかであった。

また、日本と米国の決勝前のロッカールームで、円陣を組んだところでの大谷選手の声出しが『名言すぎる』と話題になった。第一声は『僕から一個だけ。憧れるのをやめましょう。』だった。『ファーストにゴールドシュミットがいたり、センターを見ればマイク・トラウトがいるし、外野にムーキー・ベッツがいたり、野球をやっていたら誰しも聞いたことがあるような選手たちがいると思う。憧れてしまっただけでは超えられないので、僕らは今日超えるために、トップになるために来たので。今日一日だけは彼らへの憧れを捨てて、勝つことだけ考えていきましょう。』そう言うと、決意を込めた表情で『さあ、行こう!』とチームを鼓舞し、ロッカールーム全体に拍手が響く。大谷の一言で最高のムードができたのだ。

いまま連日、大谷選手の活躍が報道されるなか、私の個人的な感想かもしれないが、大谷選手には多くのひとを魅了する『他の人にはない不思議な魅力』があるように思われる。例えば、①デッドボールを与えてしまった相手にはすぐに謝罪のジェスチャーを送り、大丈夫かといたわる、②自らが出塁すれば、相手チームの野手と談笑し、互いの健闘を祈る、③試合中のグラウンドにゴミが落ちていればすぐに拾い、さりげなくユニホームのポケットに入れる、④ヌートバー選手に自ら身につけていた腕時計をプレゼントし、次の日本代表にも参加してほしいと告げる、⑤試合中のベンチ内でメジャーリーガーたちが食べているひまわりの種を、チームメイトの後頭部に投げつけ、とぼける、⑥専属の大谷選手の通訳を務める水原氏とまるで仲の良い友人のようにしゃれ合う、などなど、こちらが見ている「すごい」「えらい」「おもしろい」「ほっこりする」などの好印象の感想を常に抱く場面がたくさんあるのだ。『世界最高峰の野球の舞台』で活躍するのは難しいはず。しかし、大谷選手からは『悲壮感』は感じられず、『楽しんでいる姿』が多く見られる。なぜそんな風に振る舞えるのか?なぜ活躍できるのか?みなさんに、そういうことができるための『考え方』や『非認知能力』について考えてほしい。

それがよく現れているCMがあったことを覚えているだろうか?『僕はプロになってから928回も三振して』『打たれたヒットの数は647で』『ホームランは59本打たれ』『しかも失点数はぜんぶで281』『チャンスで506回凡退して』『怪我で692日間も投げられなくて』『試合に負けて泣いた日もたくさんあった』『二刀流が無理だと言われたことは数えきれない』『でも、二刀流が無理だと思ったことは一度もない』という大谷選手のコトバは印象的であった。いくつもの具体的な『失敗の数』をあげ、それに屈することなく前を向く大谷選手。現在も肘を再び故障し、手術をし、投げられない期間が長期化することが予想される。投手として再び手術が必要となったこの状況から、今度はどのように乗り越えていくのか、私たちが生きる上で参考となる点は非常に多い。彼から刺激を受け、私たちもどんなに『失敗の数』が増えようとも、『目の前にある困難』を乗り越えて行こう!

★高校時代の 大谷翔平選手の『目標設定シート(マンダラチャート)』★

高校時代の大谷選手にさかのぼりたい。右にあげたのは、大谷選手が活用していた『目標設定シート(マンダラチャート)』だ。上に『2010.12.6』と日付がある。『高1の冬から春に向けた目標』ということだと思われる。

中心に『最終目標』を置き、それを達成するために『必要な項目(中間ゲート)』を設定し、周囲に並べる。さらにその外側に今度はその『中間ゲート』を達成するための『小項目』を立てる。これらを『一つ一つ達成していくこと』で、『中心にある最終ゴール』に近づいていくというものだ。

ここでの『最終目標』は高校時代の目標であるため、『ドラ1、8球団』とある。『プロ野球12球団のうち8球団からドラフト1位指名を受ける』という意味であろう。『そのために必要な8項目』をその周囲に並べている。

特に、『8項目中の左下の3項目』に注目して欲しい。左下では、『メンタル』『人間性』『運』をあげている。『メンタル』についてはスポーツ選手にとって大切な要素だが、そのまわりにある『メンタルに必要な8項目』のなかの『一喜一憂しない』『雰囲気になれない』などの『具体性』には驚かされる。

また、『人間性』『運』の周囲にある『16項目』を見て欲しい。これはメジャーリーグで活躍しているままの大谷選手の姿そのままではないか!『運』をも味方につけるために、『あいさつ』『ゴミ拾い』『部屋そうじ』『道具を大切に扱う』『審判さんへの態度』が必要であると位置づけ、実行していたのだ。『運』の項目の周囲に『本を読む』を入れている点にも注目したい。『すぐに役に立つかはわからないが、将来のためにさまざまな本を読んでおく』ということだろうか?こういったことを『高1の冬』に掲げることができていることにも驚かされる。私は『いい歳をこいた大人』ではあるが、このような考え方をしたことがなかった。恥ずかしながら、見習いたいとすぐに決心した次第である。彼は高校時代からこれを貫き、『世界最高峰の野球選手』となった今でもおごることなく、実行しているのだ。いちばん左下に『礼儀』とあるが、これを具体化するためには、またその周囲に『8項目』を書いてみるといい。みなさんも『マンダラチャート』書いてみませんか? 文責:星野 亨(教頭)

★校長より★ 今号を手にして、「オオタニさん!」と口にして自分がある。大谷翔平選手ほど連日の話題に事欠かない選手はいないと思う。教頭先生の採りあげた大谷選手のマンダラチャートには驚きですね。皆さん是非とも、中間ゲートだけを見て、小項目全てを埋めてみてください。大谷選手のゴミ拾いについては、以前にお話しした事があると思います。花巻東高校時代に佐々木監督から、「ゴミは人の落とし物。ゴミを拾う事で運を拾うんだ。そして自分自身にツキを呼ぶ。そういう発想をしろ。」と言われた事を、今も実践しているんです。イエローハット創業者の鍵山秀三郎さんは「一つや二つ拾ったってしょうがないと言う人もいますが、一つでも二つでも拾えばそれだけ世の中は綺麗になる」、パナソニック創業者の松下幸之助さんは「掃除一つできないような人間だったら、何もできない」と言っています。皆さんは何を感じますか。

校長 関根 正弘